

そでし おお てまえせん
都市計画道路袖師大手前線

しんじ こ おおはし
宍道湖大橋街路事業

受賞機関 島根県松江土木建築事務所

はじめに

人口約15万人の城下町である松江市の中心市街地は、大橋川により南北に分断され、4橋で結ばれている。特に、宍道湖大橋は2車線であるが、約28,000台/12hの交通量（混雑度2.7）があり、周辺の島根県庁、松江市役所付近は朝夕の混雑が著しく、渋滞解消を目的として、宍道湖大橋及び前後区間の4車線拡幅整備を行った（完成後交通量32,000台/12h）。

施設概要

総延長：1,230m

（うち宍道湖大橋：橋長：310m、形式：5径間連続非合成箱橋）

幅員：25～27m

工事期間：平成7年7月～平成15年3月

総事業費：117億円（うち宍道湖大橋53億円）

施工上の特徴

(1) 宍道湖畔は、県下有数の景勝地であり、道路は交通機能だけでなく、その景観も重要な役割を担っている。特に、宍道湖大橋は「ふるさと島根の景観づくり条例」の宍道湖景観形成地域内にあることから、景観デザイングレードアップ事業（県事業）を導入し、意匠のグレードアップを図った。

また、橋梁前後の湖畔道路も事業実施の早い段階から住民や利用者の参加を得て、魅力ある県土づくりをめざすモデルケースとして、公開展示、ワークショップ等を開催し、沿道の公園（市事業）や親水護岸（国土交通省事業）とともに、宍道湖への眺望や周辺の環境に配慮した整備を行った。



北詰側から望む宍道湖大橋



北側から望む宍道湖大橋

(2) 構造的にも宍道湖大橋は、将来のメンテナンス等を考慮し、既設橋部分も例のない規模で全面的に補強を行った。「将来の維持管理負担の最小化」、「橋の長寿命化」など、ライフサイクルコストでの経済性を考慮した。

(3) 改築区間の道路は地形的な要因もあり、有効な迂回路がないことから、工事期間中の渋滞対策が大きな問題であった。このため、新設橋の暫定3車線供用やPR活動などハード、ソフト両面から検討し、交通対策を行った。その結果、当初予測していた工事による大きな渋滞の発生を回避することができた。

おわりに

この事業の完成は、国際文化観光都市『松江』の新しい顔として、交通渋滞の解消はもとより、地域の経済、産業、観光など、振興に大きく寄与するものと期待している。

受賞賛助会員 (株)サクラダ、ショーボンド建設(株)、JFEエンジニアリング(株)、大成建設(株)、日発工業(株)、日本車輛製造(株)、パンフィックコンサルタンツ(株)、(株)富士ピー・エス、松江土建(株)、(株)宮地鐵工所